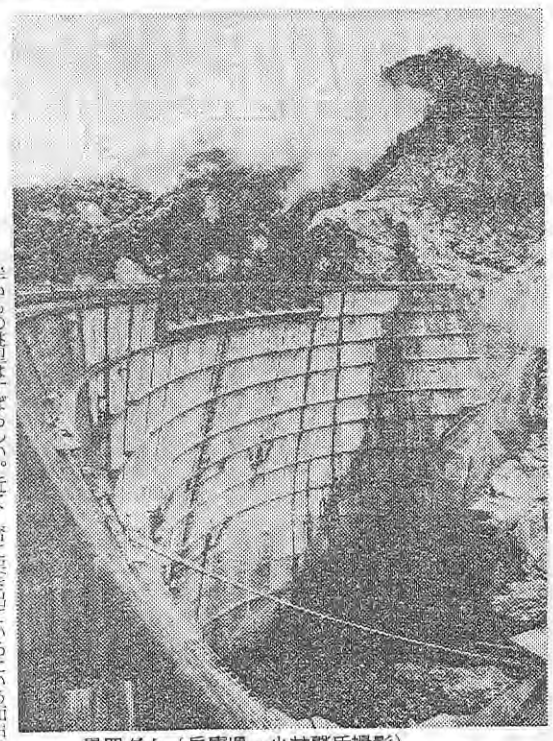
# 第11回・本年度
# グラフで見る研修旅行

九州の開聞岳（東京都新宿高校・初田一郎先生撮影）＝コンクール作品＝

## 開聞岳　九州

薩南半島の南端にそびえ立つ開聞岳は海抜九二四㍍、コニーデ型の火山である。西南東三方の視野は直接太平洋に没しているから海岸からの眺望はすばらしい。近くにある池田湖は池田火山によってできたカルデラ湖で、ほぼ円形である。湖岸は複雑な線をつくっており、東の獅子岳と西の断層線によりほとんど垂直。平均二〇〇㍍の湖底中央に円錐岳が水面下三四㍍に突き出ているという面白い湖である。

宿泊地の指宿は熱帯植物が繁茂する温泉郷。広大な地域と湧出量の豊富さで有名である。この豊富な熱を利用する製塩、野菜の温床促成栽培が行なわれている。



黒四ダム（兵庫県・小林璧氏撮影）＝コンクール作品＝

## 黒四ダム　黒四・乗鞍

黒部峡谷は立山連峰と白馬岳、槍が岳をふくむ中部山岳国立公園のなかを流れる黒部川によって浸蝕された峡谷である。浸蝕が進んでいるため水の流れが早く、河床もないので道路の建設が困難であったが、水力発電ダム工事のため関西電力の黒部鉄道が開通、峡谷美の展望と科学の力を示す巨大なダムの見学ができるようになった。秘境は眼前に展開、心ゆくまで自然美を味わせてくれるだろう。

第十一回、本年度の教職員による研修旅行は全国各地で大きな反響を呼び、全修協各都道府県支部と申込受付機関はその応接と受付に大わらわ。十二コースはいずれも全修協が企画精選したものばかり。新登場のコースにも人気が集まり、すでに満員に近いコースもある。安全、快適、低廉をモットーとするこの研修旅行は教育界の年中行事となり、なかには過去十回も参加したという皆勤者もあるほどだ。

くわしい地区別コース表、会費および解説は四、五月号で紹介したが、今回は参加者の写真コンクール作品を中心に、グラフでみる各コースの見どころを特集した。

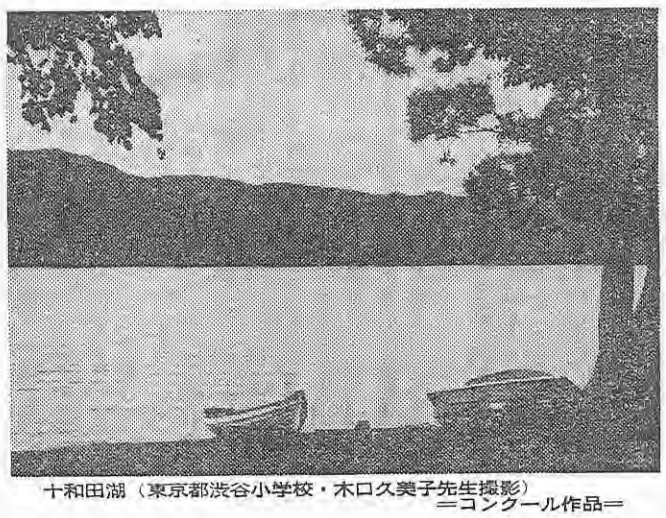
摩周湖（福井県武生高校・細井与三右衛門先生撮影）＝コンクール作品＝

## 摩周湖　北海道

阿寒、屈斜路、摩周の三つのカルデラを包含した地域は阿寒国立公園として昭和九年に指定された。深い原生林と神秘な湖、そして大陸的な展望はさいはての国としてわれわれの郷愁を満たすのに十分である。摩周湖は周囲二四㌔、水深二〇八㍍、火山爆発による陥没湖で世界一の透明度を持っているといわれる。ときおり霧に包まれるこの湖の神秘の変化を見たい。

また阿寒湖のマリモも必見のものであろう。天然記念物として指定されているこのマリモは学界でも貴重な資料である。浮んだり沈んだりするのは気温によるものだといわれている。

さらに網走郷土博物館でのオホーツク文化の研究も興味をそそるだろうし、白老でのアイヌの研修も大きなポイント。

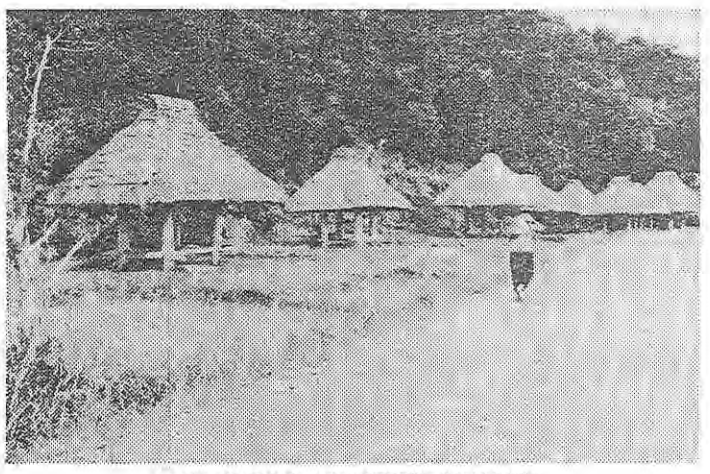


十和田湖（東京都渋谷小学校・木口久美子先生撮影）＝コンクール作品＝

高知の長尾鶏（全修協撮影）

## 十和田湖　東北

この東北コースのなかで大きな研修ポイントとなっている十和田湖は、十和田火山群中央部の陥没によるカルデラ湖。しかも二回の陥没によって現在のような美しい形となった。とくに赤褐の岩肌は緑の湖面に映えてすばらしい対照をみせる。海抜四〇〇㍍、湖岸線延べ四六㌔、総面積五九平方㌔で湖上遊覧によって千変万化の景色が満喫できる。〝幻の魚〟で名高い和井田貝行がマスの養殖で成功した湖でもある。



奄美大島の高倉（大島運輸株式会社提供）

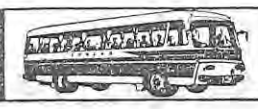
## 長尾鶏　四国

瀬戸内海を渡ると四国特有の風光が眼前に現われる。松山から高知へ。先ず目をみはるのは山肉一体に突き出ているという面白い城。よさこい節の豊が築いた高知城。よさこい節の播磨屋橋は今も呉絞りで残っている。土佐犬とともに名高い長尾鶏（ちょうびけい）は約二百八十年くらい前から飼育され、雄の尾羽は長く伸び、満四歳で三㍍にもなるという。白蘭、褐色、白色の三種あり、昭和二十七年天然記念物に指定された。

## 亜熱帯の国　奄美・徳之島

奄美群島が祖国に復帰して十四年。その復興のため特別な措置が講じられているが、亜熱帯の風物は変わることなくわれわれを迎える。澄んだ海とサンゴ礁の白い砂浜と、赤いヒビスカスの花が印象的。自然景観のほかに奄美で見るべきものは紬のドロ染め、渡物倉庫の高倉、赤蛇のハブなど数多い。

徳之島の奇勝〝犬の門渡〟や風葬あとなど研修個所が多い。ソテツの群生林も南国の風物詩。


修学旅行は　  　名神ハイウェイを

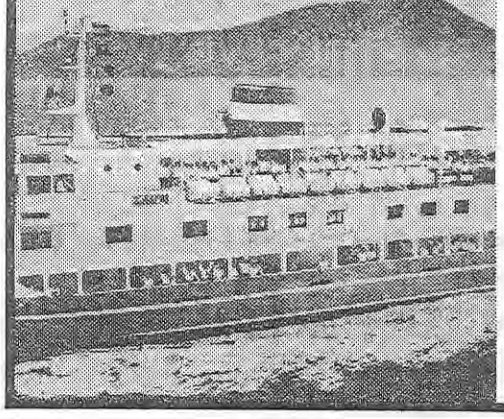
最高のサービス……時速100キロ・冷暖房完備・リクライニングシート保証

最低の運賃……名古屋―京都 2時間26分／名古屋―新大阪 2時間50分／名古屋―大阪 3時間31分

比良比叡の霊峰、犬山彦根の古城、さては奈良京都の古き良さを今に残す古寺やみ仏の数々等、白鷺天守からの古美術の静かなたたずまいを訪ねて、日本のふるさとを知る若人の想い出の旅のスケジュールに是非快適な名神ハイウエイバスツアーをお加え下さい。

お問合せ・お申込予約は当社へ
大阪市天王寺区上本町6－1－1
日本高速バス　TEL 大阪 771－6637～8 / 名古屋 521－8371～2

一般客との混乗がありません



全船冷暖房完備の修学旅行専用船
わかば丸・ふたば丸
旅客定員805名・1,100トン
●船内での学習や研究ができます
●海・船の社会科研究もできます
楽しい有意義な瀬戸内海の修学旅行を！
関西汽船
●お問合せは…大阪(441)9161
ほか関西汽船各地営業所・各旅行斡旋案内所

# 泥染めの大島紬

はるかな日本・奄美 ⑯

岩井茂彦

ハンド（水がめ）、万葉集からはサト（村）ヤド（雨戸）など、標準語のなかからは姿を消しているが、奄美ではいまもなお方言として使われている。

このほか鎌倉時代以前にはさかんに用いられたという命令法の敬語、たとえばショーレ（…候え）キュウワオガミソーラン（今日は拝み候わん）などの表現が残っている。

このような言葉をきくと、それこそ歴史のフイルムのコマを現代から八百年近くも元へまき戻さないとピントが合わない。

古い言葉をふんだんにとりいれた奄美の民謡は八八八六調四句三十音で、現在奄美でうたわれているのは四十曲一千首にのぼるといわれる。

### 〝〝〝〝〝〝〝 新北風と八月踊り 〝〝〝〝〝〝〝

かって詩人高村光太郎が「世界に比類なき民謡」と絶賛したというだけに、きく人の胸をうち、迫力をもっている。奄美の民謡は、それをはぐくみ育ててくれた地理的環境、歴史的特殊性のせいもあって、このように発展したのかもしれない。

きびしい夏の炎暑もそろそろ終わり、新北風（ミーニシ）が吹くと商国にも秋の気配が感じられるようになる。すると新北風にのって八月踊の太鼓（チデン）の調べがきこえてくる。旧暦の八月は収穫も終わり、豊年の感謝を神に捧げる。南方独特のハト（指笛）、金具を全然使わない太鼓のリズムで踊る。この八月踊は夜通し踊ることもあったくらいである。遠く近く響く太鼓の音はさすが南国の夜にぴったりで、訪れる旅人を夢幻の世界へと誘いこむ。

奄美を象徴するものの一つに高倉がある。高温な気象条件と穀物などの貴作物をネズミの害から防ぐために考え出された先人の英知の遺物である。柱はふつう四本であるが、六本のものと、九本のものもあったということで、典型的な高床式建物で、工作にあたってはクギ、金物は一本も用いず、全部組み合わせてできた建物である。一見不安定のようであるが、きわめて堅固で暴風によく耐える。床の組み方は、はなぐらの床ぐみで単純な四方貫木などが特徴で、日本の古代住居建築だともいわれる。

奄美の特産大島紬の泥染め（名瀬市）

### 〝〝〝〝〝〝〝 サトウ哀史に綴る 〝〝〝〝〝〝〝

ソテツの防風林に囲まれてサトウキビの葉が北風にそよぎ、葉ずれの音がひときわ騒がしく聞える十二月になるとサトウの生産がはじまる。

奄美の近代史はサトウを主軸にして展開されたといっても過言でない。数百万両の赤字を背負いこんだ大藩島津六十万石の財政の危機を救い、なおかつ数百万両の蓄財を可能にし、明治維新の大業をなし得た財政の基盤をつくったのは、これ実に奄美のサトウであった。奄美のサトウがなかったならば雄藩島津藩の運命はどうなっていたであろう。そしてまた、維新の大業も。

「かし、しゅてはたらしゆてもたつかたむどなりゆる、やまとちょんまげしゅのためどなりゆる」（こんなに汗水たらして懸命に働いても、一体、誰のためになるのだろうか。大和の武士階級のためにしかならない）

苛酷な収奪にあえぎ、奄美の人にはソテツのカユをすすり、目の前にあるつくったサトウはもちろんのこと、サトウキビの一切も口にすることができなかった当時の人々の生活はまことに悲惨なものだったかも知れない。

奄美の産業で忘れてならないもの、産業の王座を占めているのは大島ツムギである。渋く格調高い織物の大島ツムギは、その意匠が示唆するように、奄美に棲息するハブやタカラ貝を組み合わせた模様が、そのはじまりだといわれる。特殊な泥を利用した染めと複雑な織りが大島ツムギのポイントである。親子三代が着用してもシワがよらず、感触がよく着くずれしない特徴をもっている。最近の静かな着物ブームの最先端をいくもので、ぐんぐんと生産実績をあげ高級織物としては最優秀の折紙がつけられている。

南海の黒潮に洗われるサンゴ礁の島、古代のロマンと素朴さを残し、わが国のどこにもない自然をたくさんもっている奄美は、あくせくとした現代人の緊張感を解放し、旅人に対し、心の安らぎと憩いを覚えさせる島でもある。（終）

（名瀬市役所勤務）

# 旅先で家業勉強

修旅きき書き

川崎哲夫

友だちの高校教頭から聞いた話。

九州修旅の帰途、別府航路で大阪へ向う関西汽船で、高校が三校同船したとか。友だちの学校は関東の男女共学高校で、他の二校は関西の男子高校。四クラスの女性徒には船底の船室が割りあてられたが、夜、他校の男生徒が寝ているところをのぞきにくるとか、トイレに行ったら帰りに抱きつかれたとか生徒が訴えてくるので、真疑のほどは別として、とにかく船室へ降りる階段のところへ職員の不寝番をたてることにし、男子職員二名ずつ二時間交代に勤務させることになった。

先生方も七泊におよぶ九州旅行ですっかり疲れきっているので、教頭さんから同行の写真屋さんまで動員された由である。こんなことは修学旅行引率者としては当然だといわれるかも知れないが、夜は寝ずに生徒の番をし、昼間は大ぜいの高校生をつれて交通地獄の観光地をウロウロ歩くなどという先生方の苦労は並大抵なものではない。自分の学校だけチャンとしていればそれでよいなどというモンロー主義は、このごろの交通事故と同じで通用しないのだ。

○……○

だいたい、五百人から一千人に近い若者の大集団を汽車にのせ、大型バスを十幾台もつらねて移動していくという大名行列式形態については、そろそろ反省してよいのではないか。先進的な高校ではすでに選択コース制やグループによる研究テーマ制の実施などをしているようだが、時勢はもうそこにきているようだ。修旅が一般の先生方にとって危介な行動であったり、窓越し観光、くたびれ旅行といった汚名（？）を返上するためには、学校側が旅行屋さんの立案したプランにたよらず、もっと生徒の自主性、積極性を重視し、教師と生徒との話し合いをかさね（形式的な旅行委員の任命などによらず）それを教師が指導していくというようにしたら、修旅はそれ自体、行事としての意義を持つようになると思われる。

○……○

お好み焼き屋のせがれが修旅に出かける時、おやじさんから「こづかいはいくらでもやるから、関西から九州へかけて、行く先き先きのお好み焼き屋にはいってみて研究してこい」といわれ、まさか引率の先生がついていくわけにもいかず、同行の写真屋さんが相談相手についていったということも聞いた。

修旅が終わり帰ってきた青年たちに、いちばん印象の深かったことはなんだったと聞いたら、一にもニにもバスガールだったという話は、聞きあきるほど耳にする。〝保守反動〟といわれる年配の先生たちが「ほほえみて　うつつごころにありたたす」百済（くだら）観音などに感激しているとき高校生たちは生仏さまのバスガールに心をゆさぶられているとは、修旅の副産物もいろいろあるものだ。

（筆者は教育評論家）

# 万葉の晴めぐり ⑤

## 黄金〝産む村に

堀田勇

大仏造顕は、何といっても奈良時代の盛期の偉業であった。しかし奇妙に、万葉集には、そのことに関する作品をほとんど集録していない。国をあげての盛事であったはずであるが、人々の素純な共感が得られなかったなにかがあったのであろう。

そうした中で、大伴家持の「陸奥国より金を出せる詔書を賀ぐ歌一首並に短歌」の長編があることには注目しなければならない。

黄金不足になやむ大仏造顕事業に光明をもたらしたのは、陸奥国守百済王敬福が奉献した、領国内の小田の地から産出した黄金であった。聖武天皇の御代栄えむとあづまなる　みちのく山に金（くがね）花咲く

とうたい、さらに反歌で

天皇の御門の守りに、大君の御門の守り吾もおきてまた人はあらじ」の一節もあるが、由緒ある武門の氏の長者らしい気負いがあり、ひくい。むしろこの地に黄金の産出の情に満ちているとともに、若々しい気力にみなぎっている。

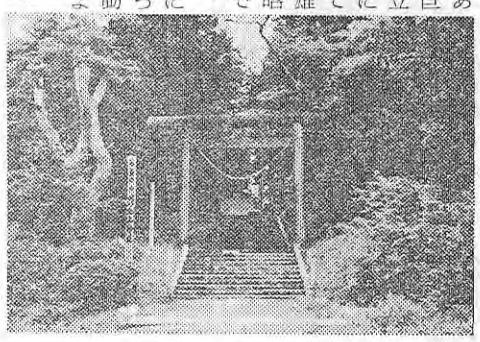
「あづさ弓手に取り持ちて、剣大刀腰に取りはき、朝守り夕の守りに、大君の御門の守り吾もおきてまた人はあらじ」の一節もあるが、由緒ある武門の氏の長者らしい気負いがあり、ひくい。むしろこの地に黄金の産出をみたというのが、かえって不思議に思えるくらい草深い農山村である。

○……

さして広くない、またあまり神さびた雰囲気でもない神社の境内に、前記反歌の歌碑が立っている。四基近くあろうという高さの巨大なもので、杉木立の木もれ日が碑面に美しい紋様を描いている。碩学山田孝雄博士の筆になり、昭和二十九年の建立である。万葉仮名の、風格ある筆勢が力に満ち溢れ、歌意にうかがえる家持の感動までも伝えているようである。

同反歌の歌碑は、家持の任地だった越中の国府址に擬せられている富山県高岡市伏木町の、名刹勝興寺の境内にもある。

なお、黄金山神社は万葉史跡の北限である。（随筆家・写真も）＝写真は黄金山神社）



## 社神金山黄

中高校の学習指導や修旅の事前指導教材として文化財集中地区を選んで製作したもの。カラー百コマ三十分で、頒価ロール九千円、カット一万円。学研発売。

## マリンパーク建設

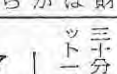
京浜急行が油壺に

【神奈川発】神奈川県三浦市油壺の県立三崎水産高校跡に京浜急行電鉄が東洋一を誇る水族館「油壺マリン・パーク」をつくることになり五月十六日起工式を行なった。

このマリン・パークは児童生徒の自然科学にたいする観察力養うほか魚類の生態が見られるよう外周八〇〇の円形水槽などのほかいろいろな珍しい魚類を集め、また児童遊園地も計画されている。総工費約十億円で来年四月に開場の予定。

## 愛護のマーク作る

文化財保護委で



文部省文化財保護委員会では文化財を国民から愛護してもらおうとこのほど〝愛護シンボル・マーク〟を作った。このマークは建築物のひびきとますがた型どり、過去・現在・未来を象徴して三つ重ねたもの。同委員会では文化財に貼布したり、出版物やバッジなどに大いに使ってほしいと希望している。（凸版は愛護シンボル・マーク）

## 〝富野山の文化財〟スライド完成

保護委員会が三十九年度から年一本ずつ製作しているオートスライドの第三作〝高野山の文化財〟はこのほど完成した。これは前作〝鎌倉の文化財〟〝日光の文化財〟と同じく

安全・快適・低廉な実験学習

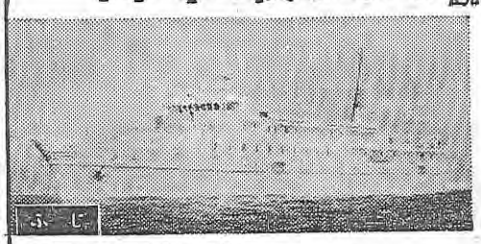
第11回 教職員研修旅行

コース
★北海道　★東北　★佐渡・盤梯
★黒四・乗鞍　★伊豆・富士
★南紀　★山陰　★四国
★九州　★奄美・徳之島　★香港・台北

申込み　詳細は学校へ配布した募集要項をご覧のうえ各都道府県の受付機関へお申込みください。

財団法人 全国修学旅行研究協会
東京都千代田区西神田2—8（幅ビル）
電話（262）2426・2932番

修学旅行は
日本最大の豪華観光船「ふじ」で



団体専用船「ふじ」が昭和40年8月に就航しました。科学の粋を集めた画期的な最新鋭船です。生徒達の心にいつまでも残るユニークな修学旅行をお約束します。
みなさまのスケジュールにあわせて全国各地のどの港へもご案内できます。
完全冷暖房、明るい船室、豪華なサロン、ロンジ、広いプロムナードデッキ、娯楽室、浴室

トン数…… 3,000トン型
速力…… 20.04ノット
定員…… 1,800名

お問い合わせは
東京支店
Ⓐ 大島運輸株式会社
東京都中央区晴海町5の7
TEL（531）9211（代表）